

ニホンジカ骨格標本のできるまで

木下 裕美子

(ひとはく連携活動グループ関西ワイルドライフ研究会 骨骨（こつこつ）倶楽部)

骨骨倶楽部とは骨を組み立てる作業を通じて骨の形態や役割、他の動物との比較をし学ぶ会です。また昨年10月に行われた「ひとはくフェスティバル」にて展示・発表する事を目標としました。昨年3月に発足し、主に人と自然の博物館（以下 人博）にて活動しています。10～70歳代まで幅広い年齢層の方が参加しており、毎回楽しくお喋りしながら、時には集中して作業を行っています。「こつこつと骨を組み立てる」事から骨骨倶楽部と命名しました。

今回私達が組み立てたニホンジカは、昨年の3月に人博が行った淡路島でのニホンジカの学術捕獲にて捕獲された個体です。倶楽部のメンバーも同行させて頂き、現地にて研究員の先生の指導の下、解体から肉削ぎまでを行いました。その後、人博にて骨をクリーニングし、組立て作業を行いました。

解剖の経験がある人は何人かいましたが、骨を組み立てる事に関しては全員初心者だったので、本や人博に収蔵されている骨格標本を参考にして、試行錯誤しながら行いました。

ポーズを決める際には、奈良公園へ行き、シカの歩き方を観察しました。月1回の集まりでは、背骨・肋骨・四肢の各部位に分かれて組立てを進めましたが、

太い針金を骨に通すのは予想以上に苦戦しました。

骨に穴を開け、針金を通しても、繋いでみると何故か形がおかしい。骨同士の結合部分が少しでも違うと全体のバランスが崩れてしまう。それまでは、全体のバランスから骨の結合部分を決めていたのですが、作業が進むにつれ、骨の細かい箇所まで見れるようになってきました。慣れてきた分、今まで組み立てていた骨格の「間違い」が見えてくるようになったので、最後の方はやり直しの連続でした。

長期に渡って1個体の骨をじっくり観察することが出来たので、背骨や肋骨、足の骨の各順番が分かるようになりました。

完成した骨格標本は、昨年のフェスティバルにて展示しました。当日は骨のパズルやシカのクイズを作製し来館者の方にも、私達が作成中に学んだ骨の仕組みについてお話をしました。

作製した骨格標本は博物館に収蔵し、機会があればどんどんこの標本を用いて動物の骨について多くの方とお話で出来たらと考えています。近日では、3月に行なわれる大阪自然史博物館のフェスティバルに出展します。

今後は、今回の経験を生かして馬の足の組立てやトラフズクのペリットから出てくる動物の骨の同定などにも挑戦してみる予定です。昨年同様こつこつと活動していければと思っています。

